

練馬区立南町小学校



# 南町小だより

つよく かしく あたたく

平成27年4月30日

校長 福田 俊彦

## 子供が子供をはぐくむ学校

校長 福田 俊彦

新緑が鮮やかさを増してきた南町小学校の5月です。新しい学校、新しい学年での1ヶ月。お子さんの様子はどのようなのでしょうか。今年度も子供が子供をはぐくむ場面をお伝えしていきます。

4月、2年生が学校探検の授業として、校長室や職員室などに訪ねてきました。開いている扉の向こうから「失礼します。」の挨拶の声が聞こえてきます。そして、自分の名前を伝え、何のために来たのかを話します。1年生を案内し、南町小学校のことを説明するための取材です。校長室では、室内を見回し、疑問に思ったことを言葉に表します。今年度は、昨年度の案内をされる側から案内する側になったので、責任感も高まっているようです。たくさんの写真を見て、「写真の人は誰ですか。」「校長先生はどんなことをしているんですか。」メモする姿からは、1年生のことを考えていることが伝わってきます。

この学習には、今の3年生とのつながりがあります。一つ上の学年の子供から学んだことが2年生の姿になっています。学校の案内の仕方や説明の仕方について工夫しようとする活動には、2年生の成長が見られます。きっと、やりがいを感じているのでしょう。責任も感じているのでしょう。子供が子供をはぐくむ場面が引き継がれ展開される場面となっています。

全校児童集会で行った「1年生を迎える会」もそうでした。前年度の代表委員が進行の役割を担います。子供の和やかな表情を創り出しているのは、正に、全校の子供たちです。しかし、その場では見ることができない子供の姿があります。事前の打ち合わせ、そして会場作りなどです。その活動があつてこそ、1年生に思いを馳せる気持ちがあつてこそ、この会が成り立ちます。見えない活動を知り、全体で共有することは大事なことです。子供の活動に価値を付けることになります。子供相互の理解にもつながります。自分がその立場になった時に、今回のことを想起することになるでしょう。学校生活にはこのような場面が多々あります。南町小学校では、子供が子供をはぐくむ場面を積み重ねていきます。

保護者、地域の皆様には、ご来校の際、子供たちに励ましのお声をいただければ幸いです。ご理解とご支援をお願いいたします。